

授業コード / Code	科目名 / Course Title	担当者 / Instructor	履修年次 / Semester	授業形態・単位数 / Style・Credits	必修選択の別 / compulsory subjects or optional subjects
j29113	子どもの遊びV	仁科 幸	2年次・後期	講義・2単位	保育士選択必修

授業の概要 / Course Outline
<p>本授業は、子どもが遊びに没頭する体験が子どもにとってどのような意味をもつのか、また、子どもとかわる大人として、子どもたちの日々の遊び体験をより豊かにするためにはどのような支援が必要なのかを講義と実践によって学習する。特に、自然や音楽、美術などの児童文化や児童文化財を活用しながら、身体表現を伴った体験を通して子どもの遊びの世界を探究する。</p>

到達目標 / Attainment Objectives	ディプロマポリシーとの対応関係 / Relationship with the diploma policy
・子どもにとっての遊び、児童文化の重要性を理解して、自分なりの言葉で説明できるようになる。	A-①、A-②
・子どもの遊びを豊かにする児童文化財の知識、活用力を習得する。	A-②、D-②
・子どもの発達を保障するための児童文化財や文化的環境を継承する保育者の役割を理解する。	C-①、B-②

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記) End of Semester Examination (Written)	0%	
レポート試験 Report Examination	40%	授業終了時に毎回提出するリフレクションシート。
実技試験 Practical skill test	0%	
平常点評価 Continuous Assessment	60%	授業への取り組み(グループワーク、発表等)。

教科書 / Textbooks
指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書 / Reference Books
柴真理子『身体表現-からだ・感じて・生きる』東京書籍(1993)

予習・復習 / Preparation・Review
日頃から自分自身の身体や好きな芸術や文化、ものづくりなど、創造的な活動への意識を高めておくこと。また、興味のある表現活動について調べたり、鑑賞したり実践したりすることで、興味と知識を深めておき、そこでの考察をリフレクションシートの記述に活かすこと。(予習復習の時間は15分程度)

課題に対するフィードバック方法 / How to give feedback on tasks
リフレクションシートを毎時回収して、翌週返却する手順で、適宜コメントをフィードバックする。

その他 / Others

授業スケジュール / Course Schedule

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業回数 Lecture	テーマ / Theme
	内容 / Contents
01	子どもにとって「遊び」とは
	「遊び」とは何か、講義とワークショップによって概観する。
02	子どもと自然の出会い①
	外遊びを通して、子どもと自然科学の出会い方を理解する。
03	子どもと自然の出会い②
	外遊びを通して、子どもと自然科学の出会い方を理解する。
04	子どもと自然の出会い③
	外遊びを通して、子どもと自然科学の出会い方を理解する。
05	いろいろ「おに遊び」の実践と意義①
	様々なおに遊びの体験を通して、その教育的意義と、発達段階に応じた保育者の支援の在り方を考察する。
06	いろいろ「おに遊び」の実践と意義②
	様々なおに遊びの体験を通して、その教育的意義と、発達段階に応じた保育者の支援の在り方を考察する。
7	音を使って遊ぼう①
	身近な素材を用いて、音と身体を介した遊びを実践し、可能性や支援のあり方を考察する。
8	音を使って遊ぼう②
	身近な素材を用いて、音と身体を介した遊びを実践し、可能性や支援のあり方を考察する。
9	音を使って遊ぼう③
	身近な素材を用いて、音と身体を介した遊びを実践し、可能性や支援のあり方を考察する。
10	文化財としての紙芝居: 演じて遊ぶ教材の研究と活用①
	文化としての紙芝居の歴史、楽しみ方、演じる者の心構えと具体的な技法を学ぶ。
11	日常保育からの劇遊び・ペープサート: 演じて遊ぶ教材の研究と活用②
	日常保育への展開を見通して、上演会で演じるための劇遊び・ペープサート、または紙芝居の演目を決め、役割分担等を行う。
12	教材研究と作成: 演じて遊ぶ教材の研究と活用③
	上演会で演じるための教材の作成を通して素材や子どものための文化財そのものの特性を理解する。
13	演じ方の研究: 演じて遊ぶ教材の研究と活用④
	作成した教材を活用した演じ方の練習を通して、子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための効果的な実演方法や環境構成を考える。
14	発表会の開催: 演じて遊ぶ教材の研究と活用⑤
	発表会で演じることの楽しさや緊張感を味わいながら、子どもの視点、日常保育への展開を考察する。
15	まとめ
	発表会の映像鑑賞、授業の振り返り